

聖路加国際大学看護学部実習室の現状と課題

佐居 由美¹⁾ 植田 尚子¹⁾ 眞鍋裕紀子¹⁾ 森島久美子¹⁾ 大原まどか¹⁾ 蛭田 明子¹⁾

The Present State and Problems of the Nursing Simulation Lab at the College of Nursing, St. Luke's International University

Yumi SAKYO, Ph.D, RN¹⁾ Hisako UEDA, BSN, RN¹⁾ Yukiko MANABE, RN, PHN, MS¹⁾
Kumiko MORISHIMA¹⁾, B.A. in History Madoka OHARA¹⁾ Akiko HIRUTA, RN, CMN, Ph.D¹⁾

[Abstract]

For nursing students who learn basic nursing skills, it is essential to provide a nursing simulation lab where they can practice such skills. In order for nursing students to perform actual nursing procedures on patients in practical training, it is a prerequisite that they have acquired basic skills in a nursing simulation lab. In this study, we conducted a questionnaire survey on the students for the purpose of improving the environment of our nursing simulation lab. Based on its results, we report the present state and problems of our nursing simulation lab. This survey was conducted on the web between June 24, 2014 and September 30, 2014, and 93 responses were obtained. The positive responses include: the self-learning materials were sufficient (80%); the tools were clean (85%). On the other hand, the negative responses include: the number of bed was insufficient (55%); the nursing simulation lab could not be used (25%). In addition, there were some free comments, such as “the beds were out of order,” “the tools overall were lacking”, “the quality of the nursing simulation lab in itself was poor,” and “the space between beds was too small”. In the future, it is required that we utilize the limited space in the nursing simulation lab effectively to provide an environment which allows the students to learn proactively.

[Key words] nursing students, basic nursing skills, nursing simulation lab, questionnaire survey

[要旨]

看護学生が看護基礎技術を習得するためには、その技術を練習するための実習室の整備が不可欠である。実習において実際に患者に看護技術を実践するためには、実習室において基本的な技術が習得されていることは前提条件である。今回、実習室環境を改善することを目的に、学生にアンケート調査を実施した。その結果を踏まえ、実習室の現状と課題について報告する。調査は、2014年6月24日から9月30日にweb上で実施し、93件の回答があった。自己学習物品が不足していない80%、物品が清潔であった85%といった肯定的な回答の他に、ベッドが不足している55%、実習室を使用できなかった25%といった否定的な意見もあった。また、「ベッドが足りない」「全体的に物品が足りない」「実習室自体のクオリティが低い」「ベッドとベッドの間隔が狭い」という自由記載があった。今後は、限られた実習室スペースを有効に使用し、学生が主体的に学べる実習室環境を整備することが課題である。

[キーワード] 看護学生、基礎看護技術、実習室、アンケート調査

1) 聖路加国際大学 実習室委員会 St. Luke's International University, Committee of Nursing Simulation Lab

I. はじめに

医療の高度化，限られた実習時間，患者の権利意識の増強等により，看護学生が実習において経験できる看護技術は限定されており，卒業時の看護学生の看護実践能力の低さが話題になって久しい。臨床看護実践能力には看護技術力が含まれ¹⁾，学生の看護技術習得についての報告や取り組みが多く報告されている。臨床の場である実習において，患者に安全に看護技術を実践するには，その看護技術を学生が十分に習得できていることが大前提である。技術習得のためには，学生による主体的な学びと練習のための場と教材が必要となり，看護実習室のあり方が重要となる。このたび，学生の自己学習環境としての実習室環境を改善する目的にてweb上でアンケートを実施した。本稿では，その結果を踏まえ，本学看護学部における実習室の現状と課題について報告し，今後の実習室のあり方について考察したいと考える。

II. 聖路加国際大学実習室の現状

本学看護学部実習室は看護学部本館の地下1階に6室(385.6m²)と6階に1室あり，総面積は概寸で約708m²である。本学の看護学専門科目全体の学内実習(演習)を行う場であり，いくつかのゾーンから成っている。授業で使用していないときは，学生が自ら学習を深めたいときに，いつでも自由に使用できる²⁾。看護学部生(1学年100人)，看護学専攻科大学院生，認定コース受講生で共同使用している。加えて，研究センター事業や聖路加国際病院研修などにも使用される。また，学部生の自己学習支援および実習室環境整備のために，看護師の資格を保有する実習室支援員アルバイトを週2回雇用していたが，学生の自己学習支援強化および実習室物品の適正な管理を目的に，2014年度より実習室専任の助手(以下，実習室助手)が雇用され実習室に常駐している。実習室助手の勤務時間は，学部生の時間割の空き時間や実習後の学生支援に配慮し，8:00-16:00または11:00-19:00の2シフトとしている。実習室助手の勤務時間等の実習室情報は，webブラウザを使用した学内支援システム「manaba course 2」を用いている。また，実習室委員会が実習室の整備管理を検討する役割を担っている。構成員は看護系教員4名および事務系職員2名の計6名であり，月1回委員会を開催している。

III. 実習室アンケート調査結果

実習室についてのアンケート調査は，実習室の学習環境改善を目的とし学部生365名を対象にweb上にて行った。アンケート依頼画面に，回答内容は個人が特定

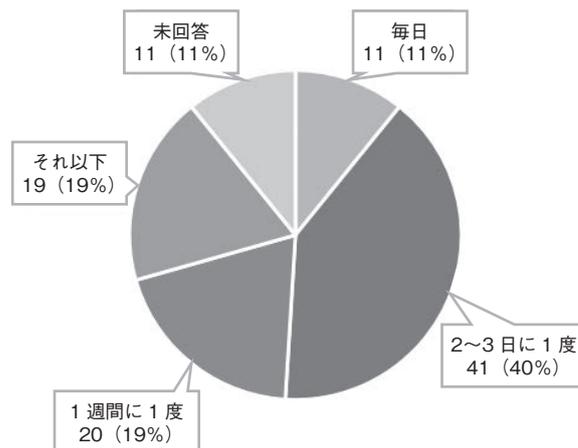


図1 実習室使用頻度 n=93

されずに集計して公表することを明記し倫理的に配慮した。質問内容は，「実習室利用の際の科目，頻度」「実習室利用に関しての物品，ベッドの状況」「実習室支援員の支援に関して」「実習室の環境に関して」の主に4項目であった。実施期間は，2014年6月24日から2014年9月30日であり，93件(回答率25.5%)の回答が寄せられた。内訳は，1年生27名(29%)，2年生30名(32%)，3年生22名(24%)，4年生14名(15%)であった。

1. 使用科目や頻度に関して

使用科目を複数回答で求めたところ，基礎看護技術論111件，コミュニケーション実習26件，ヘルスアセスメント方法論21件，小児看護学5件，産科看護学および臨地実習3件，老年看護学2件であった。また，使用頻度は，毎日または2~3日に1度があわせて，56%であった(図1)。

2. 不足している物品に関して

物品が不足していると感じている学生は，全体の20%を占めており(図2)，主に不足している物品としては，技術を練習する教材モデル(全身，陰部，注射，浣腸，導尿，吸引)やベッドが挙げられていた。特にベッドの数が足りないと感じている学生は回答者の約半数を占めた。

3. 物品の状態に関して(図2)

約90%の学生が物品を使用する際に，所定の位置に整頓されていたと回答していた。物品の清潔さについては，約85%の学生が使用する際は清潔であったと感じていた。

4. 支援員の支援体制について

支援員による支援が十分でないと感じた学生は約11%であり，その多くは支援員が不在で質問等ができな

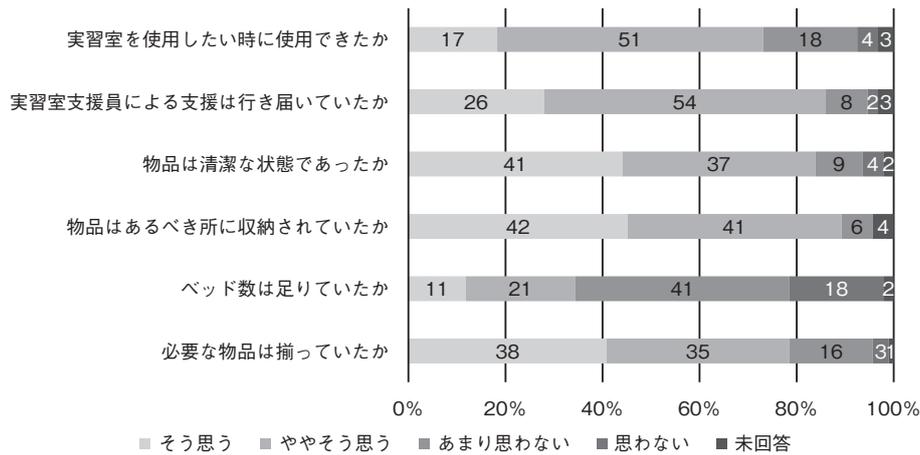


図2 実習室使用状況調査結果 n=93

かったという意見であった。

5. 実習室の使用について

実習室を使用したいときに使用できなかった（あまり思わない・思わない）との回答が約25%あった（図3）。その理由としては、演習や行事などで使用されている、物品が不足している、自己学習スペースが確保できない、などが挙げられていた（表1）。

6. 実習室への要望について

実習室への要望について自由記述で意見を求めたところ、物品、実習室マナー、実習室予約に関する意見があった（表2）。

IV. 他校の実習室状況調査

実習室環境整備について参考にするために、他大学の看護系学科の実習室状況について調査を行った。調査対象は、2013年度12月時点で日本看護系大学協議会加盟校217校とし、各大学のホームページから情報を得た。その結果、実習室について記載のあった大学114校（52.5%）を調査対象とした。実習室の形態は、基礎看護学実習室、小児看護学実習室といった各領域で実習室を有している大学が73校（64.0%）、実習室を共同使用している大学が5校（4.4%）であった。50校（50.9%）はHP上には記載がなかった。実習室の広さの記載があった大学は5校あり、福岡女学院看護大学1,039m²、埼玉県立大学891.1m²、札幌医科大学604.8m²、東京女子医科大学544m²などであった。本学と同じ1学年の学生定員100名の大学は9校あり、すべての大学が領域別実習室（3～6室）を設置していた。また、実習室ベッ

ド数は3校で記載があり29～41台であった。

V. アンケート結果への対応

1. ベッドについて

ベッド数は学生4人に1台が望ましいと言われていたためⁱ、学部2年生（102名）に合わせベッドを従来の21台から26台とした。増えたベッド5台はwithoutベッド領域に設置した。聖路加国際病院との一体化による2014年度事業予算として、ベッド14台の購入が決定していたため、廃棄数を調整しベッド数増加に対応した。床埋込コンセントのため、ベッドのプラグ故障が頻発しており、新規購入のベッドはすべて手動式とした。

2. 物品の破損、不足について

実習室助手の常駐により、適切な個数確保、迅速な故障対応が可能となった。また、実習室の使用等について検討する実習室委員会の構成員に2013年度より看護教員以外の事務系職員（財務経理課、物品管理課）が加わったことにより、物品の購入・実習室環境や備品修理についての対応が迅速になり、実習室委員会機能が格段に高まった。また、2014年度の聖路加国際病院との一体化により、病院施設課による実習室設備の改修、リネン室の協力による実習室物品の有効利用が可能となり、実習室環境整備が大きく改善された。今後は、床のコンセントの破損等の設備故障に対応するため、施設課職員による定期的な見回りも検討されている。

3. 自己学習スペースについて

限られた空間を共同で使用するため、個人が長時間ベッドを独占せずに複数人で共有するよう学生にアナウ

i 厚生労働省「看護師等養成所の運営に関する指導要領」（第6 施設設備に関する事項 5. 看護師養成所（2）および別表9）

表1 実習室が使用したいときに使用できなかった理由 ※ 回答内容は一部抜粋

<p>[自己学習スペースの不足 (21 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習直前など同じ学年の人と利用する時期が重なっていたため。 ・ベッドが埋まっている。荷物によるキーボード禁止の紙を昨年貼っていたのは助かった。 ・他学年とテスト、演習の時期がかぶっている。混雑している。 <p>[演習や授業、行事で埋まっている (7 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かの授業実施で使用されている。少しのエリアでもいいので、学部生が利用できるようにして欲しい。 <p>[物品の破損のため (2 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壊れているベッドが多数あった。

表2 改善してほしい点

<p>[物品やスペースの不足 (19 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数分は厳しいとは思いますが、物品数を増やして欲しい。最新の物品が少ない (6 件) ・ベッドの数を増やして欲しい。(4 件) ・パーティションの数を増やして欲しい。(2 件) ・MARUZEN の DVD は数が少なく見られない事態が生じている。(2 件) ・ベッド柵があるところと無いところがある。 ・生徒数に見合ったベッド数や物品の数にして欲しい。 ・練習できる部屋を増やして欲しい。 ・学生を増やしたなら、それに伴って練習するスペースを増やす必要があると思う。 ・練習場所が限られるため自己学習が必要な講義が他学年とかぶっている場合は配慮してくれると有り難い。 <p>[物品の破損 (16 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドのコンセントが壊れているものが多いため、改善して欲しい。(5 件) ・壊れていないベッドを用意して欲しい。(3 件) ・ベッドが上がらないこと、柵がないこと、オーバーベッドテーブルがないなどの、ベッドの周囲の環境が整っていないことがある。(3 件) ・物品の破損や劣化がひどいものがあり、使いづらい。(3 件) ・コンセントは天井からつるすほうが壊れなくてよい。 ・床の埋め込み式コンセントの点検を定期的に行なって欲しい。 <p>[衛生状態 (8 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れているシーツや枕カバーは頻繁に洗濯して欲しい。(4 件) ・床はホコリだけで掃除が行き届いていない。他3件 <p>[実習室使用マナー (2 件)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だいたいいつも綺麗であるが、ときどき自己学習後の現状復帰ができていない学生もいる。 ・使用する際のマナーが非常に悪い人がいる。 <p>[その他 (抜粋)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画がその場で見られるように、実習室に PC を数台置いて欲しい。 ・自己学習のためのコンテンツの充実を早急を実現してほしい。 ・ベッド間の距離が近くて、実技の練習をしにくいので、もっと余裕を作って欲しい。 ・学びたいと思っても、練習環境に性差があるのはおかしい。男子優先日や男子優先エリアをもっと増やしてあげたらどうか。 ・支援員のいる時間をもっと増やして欲しい。 ・できれば日曜日も使えるようにして欲しい。

ンスを行った。また、教員には、使用予定が変更された場合の予約取り消しおよび学部生の自己学習への協力を実習室委員会から依頼した。

4. その他

リネン類は定期的に交換しているが、自己学習等で汚れてしまうことがあるため、リネン類取り換え等の対応方法を manaba 上に掲載した。また、男性学生と女性学生との実習室同時使用に配慮し、女性学生が寝衣の上に着用するための患者用ガウンを、聖路加国際病院リネン室の協力により実習室備品に加えた。学内の WIFI 環境が整備されたことにより、地下でも PC を使用して web 教材の視聴が可能であり、学生への周知を行う予定である。

VI. 本学実習室の課題

学部生へのアンケート結果より、回答者の約 8 割は実習室環境に満足していると捉えることができた。だが、自由記述の内容からは、実習室を共同使用していることによる課題が散見され、今後の対応が必要であると考えられる。

1. 共有実習室としての課題

本学校舎が施工された 1997 年時には学部生の 1 学年の定員は 80 名であったが、現在の定員は 100 名であり、大学院カリキュラム変更による大学院生の使用、認定コースの設置、教育センター事業の拡大などにより、実習室が学部生以外にも使用される機会が増えた。実習室不足に対応するため、校舎施工時は大学院生ラウンジとして使用していた 6 階の教室が実習室として転用され、現在 FNFPⁱⁱ 実習室として整備されている。湯川³⁾らは、

実習室を共有することのメリットとして、「部屋が広い」「多目的に利用でき合理的」の2点を挙げ、「実習使用時間の重なりが生じる」をデメリットとしている。また、領域別実習室のメリットとして、「各教科の同時開講が可能」「領域ごとに器材等を整備しやすい」「それぞれの領域にふさわしい展示物品・掲示物品の利用が可能」「学生が自己学習しやすい」を、デメリットとして「実習室を細分することによる個の面積が少なくなる」「器材等をそれぞれ整える必要があり非効率」を挙げている。本学でも、共同実習室のメリットを活かし、スペースや物品は各領域で有効に使用され実習室助手による物品の一元管理を可能にしている。だが一方で、共同使用によるデメリットも目立つ。学年を異にする科目での使用が重なるため、随時、担当者間での調整が必要となる。学生の自己学習期間は自己学習に必要な物品が常に実習室に出ており可動式のワゴンに設置されているが、演習で使用するには倉庫にかたづける作業が発生する。複数の学年の自己学習物品が置かれる時期には、多くのスペースが自己学習物品設置のために使用されている。学生の要望を受けベッドを増やしたが、従来オープンに使用できるスペースに増加分のベッドを設置しており、今後のオープンスペース不足が懸念される。また、学生の自由記述のなかに「ベッド間の距離が短く練習し難い」というものがあった。病室の床面積は患者一人につき4.3m²以上ⁱⁱⁱとされており、地下アーツルーム with ベッド領域では約20mにベッドが7台設置されているため、ベッド間隔を約3m確保することが可能であるが、地下アーツルームは廊下がなく未使用時は通路として使用されており、通路スペース分ベッド間隔が狭くなっていると考えられる。

2. 今後に向けて

これまででも、実習室学習環境改善に関しては、学内webシステムによる実習室使用閲覧、ベッドやモデル類の購入、常勤の実習室助手の雇用などの対応が行われ

てきた。本学は他の多数の看護系大学とは異なり領域別実習室を有さないが、実習室面積をHP上で公表している他大学と比べても実習室が狭いわけではない。しかし、実習室使用目的が学部生以外に発展したため、学部生が自己学習できる時間に制限を来している状況が学生へのアンケート結果から垣間見られた。より学生の主体的な学びを推進するため、現在の環境を有効に利用するための方策が必要である。また、看護実践において必要なスキルは、基礎看護技術習得にとどまらず、患者とのコミュニケーション能力、臨床状況における対応能力なども必要となる。そのため、シミュレーション演習や急性期等の領域別の演習も行われているが高度な医療設備を有する実習室はなく、現時点では、急性期演習は外部施設にて演習を行っている。

今後は、大学附属施設との相互の実習室使用、実習室使用のすみわけ、聖路加国際大学教育センターとの連携、実習室視聴覚機材の新規購入等を検討していきたい。2015年度には、学生がより主体的に使用するための実習室環境整備を目指し、学生実習室委員会を発足させる予定である。また、附属施設が隣接している利点を生かし、学生の学びの場所を実習室から臨床の場に円滑につなげるためのボーダーレスな学習環境システムの構築も有効であろう。本学の強みを生かし、実習室環境をさらに改善していきたいと考えている。

引用文献

- 1) 松谷美和子他. (2012). 看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力—1年目看護師への面接調査の分析—. 聖路加看護学会誌, 16, 1, 10.
- 2) 2014年度聖路加国際大学便覧, 70.
- 3) 湯川倫代, 林公子, 木村美智子, 安藤瑞穂. (1983). 本学の看護学実習室の検討—国公立看護系短期大学における看護学実習室に関する実態調査を基にして—. 愛知県立看護短期大学雑誌, 15, 51-61.

ii 文部科学省「看護系大学教員養成機能強化事業」フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム

iii 医療法施行規則第3章第16条3.4